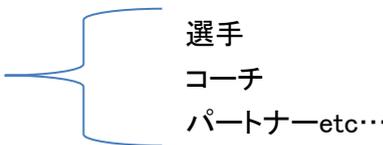


県外派遣報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	高体連
大会名	平成26年度 第28回 関東クラブバスケットボール選手権大会		
期間	平成27年1月31日(土)～2月1日(日)		
会場	小田原市総合体育館(小田原アリーナ)		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月30日	審判会議	平塚商工会議所	
1月31日	男女1・2回戦	小田原市総合体育館(小田原アリーナ)	
2月 1日	準決勝・決勝	小田原市総合体育館(小田原アリーナ)	
審判会議・講義内容			
<p>1月30日</p> <p>伊藤亮介氏より、「信頼される審判を目指して」という題で、自身の経験や派遣審判員の意見を交えて、講義があった。ステップアップのために様々な準備、自分を出し切ること、パートナーシップが必要である。そのために、どこかで自分を変えなければならないこともある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たり前のことを当たり前 ・求められていることを意識する ・見られているということを意識する ・時間は自分で作るもの(環境のコントロール) ・仲間を大切に <p>これらの積み重ねが、信頼される審判に繋がるということを話された。</p> <p>稲葉威氏より、コート外も含めてすべての人との関係造りを大切にし、昇格を勝ち取る姿勢と覚悟が大切だと話された。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>2月1日</p> <p>安西ブロック長、平育雄氏より、様々なケースを用いて「より良い判定のために」という講義があった。「『準備』とは見ること。」として、個々の段階を追って話をされた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①見えることを見る。 ②見えないものを、どう見るか。 ③パートナーの位置。 ④心を見ようとする。 <div style="margin-left: 100px;">  <ul style="list-style-type: none"> 選手 コーチ パートナーetc... </div> <ol style="list-style-type: none"> ⑤試合の終わらせ方が見える(イメージできる)か。選手に勝敗を決めさせる。 ⑥パートナーの意志を見ることができるか。自分の意志を見せられるか。 <p>これらをどこまで見ようとし、見ることができるかが準備の違いであり、審判技術の違いになる。</p>			

実技				
担当試合	期 日	平成27年1月31日	女子	1回戦
	対戦カード	Team DADA(茨城) VS AFBB(東京)		主審
	相手審判	福井 正徳 氏(神奈川県)		
ミーティング内容		主任 河野 仁 氏(山梨県)		
<p>パートナーシップをより強く意識すること。相手のエリアで起きたファウルの取り上げ方。本当にどうしても取り上げなければ、今後試合に影響するものなのか。吹き方の工夫はどうか。相手はどのような反応をしていたか。その場だけでなく、試合全体を考えて、判断することが必要。</p> <p>今見えているスペースが全てではない。より、スペースをとらえることにこだわりを持って、捉えに行ってもらいたい。(久保氏)</p>				
担当試合	期 日	平成27年2月1日	男子	準決勝
	対戦カード	勉族(千葉県) VS RBC東京(東京都)		U2
	相手審判	R:稲葉 威 氏(茨城県)	U1:廣瀬 俊昭 氏(神奈川県)	
ミーティング内容		主任 安藤 俊明 氏(千葉県)		
<p>前半は3人の距離感が保たれ、運動性も良く、3パーソンメカニクスの良さが出ていた。しかし、後半はリードでの動きに迷いがあり、中途半端になってしまったことで、クルー2人を惑わせてしまった。終盤、勝負が決まった中でのチープな笛が続いた点は修正が必要。ポストの争いにおいて、オフェンス、ディフェンス問わずシリンダーを外れての腕の使い方の判定をはっきりと示す。</p> <p>3人合わせて、もっと危機感を持ってコートに立ってほしい。点差が離れても、いつ何処で何が発端で空気が変わるかわからない。そういうことを感じて試合運営をしなければならない。クールの1試合通してフラットに吹くことは長所であるが、試合の中で場合によっては強く出なければならないところ、全体に知らせなければならないところを工夫する必要がある。(安西氏)</p>				
全体の感想				
<p>今回、自身にとって初の県外派遣の主審、審判主任、二日目の割当てと今まで以上に責任を感じる大会だった。これまで如何に、自分のことだけを考え、動いていたのかを痛感した。初日に指摘されたようにもっと相手を見て協力するという。二日目に指摘された全体に知らせるということ。これらを改善するために、より周りを見て、自分を客観視し、全体のことを考えなければならない。大会全体としては、開講式で安西ブロック長の話された「善と悪の判定だけでなく、悪と悪の判定が必要。」という、高校生までではあまり見受けられないようなケースが多々あり、難しさを感じた。競技規則の熟知、バスケットボールの理解を深めること、それをもとに如何に自分を保ち、自分を表現できるかが今後の課題である。</p> <p>日頃、自身の担当することのないカテゴリーを担当することの難しさを感じるとともに、そうすることでバスケットボール観や審判技術の向上につながると感じた。県内でも所属連盟を大切にしながらも、そこだけに留まらず、連盟の垣根を越えて活動していきたい。</p> <p>最後になりますが、大会開催期間中、神奈川県の皆様、各都県の皆様には本当にお世話になりましたこと、感謝申し上げます。また、このような場に派遣して下さった、埼玉県協会の皆様にも心より感謝申し上げます。今後も精進していくとともに、少しでも埼玉県に還元していけたらと存じます。有難う御座いました。</p>				